

## 序章 Prologue

# 東京2020大会 開催に向けた設計図づくり

東京2020大会の成功に向けた県の取組として、  
「神奈川ビジョン」と「かながわアクションプログラム」をまとめた

## 「神奈川ビジョン」の推進で 神奈川の魅力を世界へ発信

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京2020大会」という。）では、世界中から多くの人やメディアが日本を訪れることから、神奈川の魅力や特長を世界へ向けて発信する絶好の機会となる。そこで、県では2013年10月に「五輪のための神奈川ビジョン2020推進本部」を設置し、大会に向けた神奈川の姿や、東京2020大会に対する支援のあり方を示す「オリンピック・パラリンピックのための神奈川ビジョン2020」（以下、「神奈川ビジョン」という。）を2014年8月に策定した。神奈川ビジョンは2部構成で、第1章では「2020年に向けて世界に見せる神奈川モデル」、第2章では「神奈川からオリンピック・パラリンピックを盛り上げていく取組」について示した。

第1章は5つの「神奈川モデル」について提示しており、内容は次のとおり。

①超高齢社会へ対応する神奈川をお見せします～ヘルスケア・ニューフロンティア～②新たなエネルギー体系に転換する神奈川をお見せします～分散型エネルギーシステム～③ロボットと共生する神奈川をお見せします～ロボットで支える県民のいのち～④おもてなしの心あふれる国際観光地・神奈川をお見せします～多彩な国際観光スポット～⑤安全・安心な神奈川をお見せします～地震・津波対策と治安対策～

さらに、それぞれの神奈川モデルには詳細な事業内容を記した。

第2章では東京2020大会を盛り上げる取組として、次の4点を挙げ、それぞれ取組の柱を提示している。「東京大会開催サポート」では、オリンピック等の事前キャンプ誘致、ナショナルトレーニングセンターの誘致、パラリンピックの振興、大会ボランティアの育成、安全・安心の確保に向けた治安対策

の基盤整備を提示。「観光戦略・魅力発信」では、神奈川ならではの観光魅力の創出、ニーズや好みに応じたプロモーション、手に入れやすい観光情報の提供、快適な旅の提供を提示。「スポーツ振興」では、スポーツ選手の育成、「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画社会の実現、障がい者・高齢者スポーツの推進を提示。そして、「神奈川の人づくり」では、市町村・地域と一体となった地域社会づくり、グローバルな視野を持つ人づくりを提示した。

## 「神奈川ビジョン」の実現を担う 「かながわアクションプログラム」

神奈川ビジョンに掲げる考え方にに基づき、東京2020大会とラグビーワールドカップ2019™を成功させるため、両大会に向けた取組を計画的に推進するために、より具体的な施策・事業を明らかにした、「ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会推進かながわアクションプログラム」（以下、「アクションプログラム」という。）を2016年10月に策定した。アクションプログラムは、その後も2017年7月、2018年7月、2019年7月に改定した。

アクションプログラムで示した具体的な施策・事業の体系は次のとおり。

まず、Ⅰ「大会成功に向けた取組」と、Ⅱ「大会を契機としたかながわプログラム」の2つの大柱があり、それぞれに中柱、小柱がある。Ⅰの中柱は、①推進体制の整備②ラグビーワールドカップ2019™に向けた取組③東京2020大会の機運醸成に向けた取組④東京2020大会・セーリング競技に向けた取組⑤東京2020大会・その他競技に向けた取組である。Ⅱの中柱は、①神奈川のおもてなし②国際観光地としての魅力向上・発信③神奈川から魅せる文化④大会開催を契機としたスポーツ振興とした。